



ふるに入ると、どうして、体にあわがつくの

体につくあわは、空気があわになったもの

ふるに入ったとき、体にたくさんのあわがつくのは、わたしたちの体についている空気が、あわになったものです。

わたしたち人間の体には、手のひらや足の裏、くちびるなどを除き、ほとんど全身に、「うぶ毛」が生えています。「うぶ毛」というのは、体に生えている、細い短い毛です。その「うぶ毛」の間には、たくさんの空気があり、わたしたちは、その空気をつけたままふるに入るため、その空気があわになって、体につくのです。

体に毛があるのは、人間がほ乳動物の仲間だから

体に毛が生えている動物は、たくさんいます。イヌやネコ、ライオン、シマウマ、サルなどの動物や、人間など、みんな体表に毛があるのです。

このように、体表に毛のある動物は、すべてほ乳動物の仲間です。体表に毛のあるのが、ほ乳動物の大きな特徴の一つになっているのです。

人間もほ乳動物の仲間ですから、体表に毛のあるのは、あたりまえのことで、その一つが、「うぶ毛」というわけです。しかし、「うぶ毛」は、かみの毛のような、メラニンという黒い色素(色のつぶ)がないため、無色であることと、細い短い毛のため、たくさん生えていても、あまり目立たないのです。(監修・保志 宏)

